

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol. 6

### 水によって開かれた大野原

香川県 大野原町長

ひらの きよし  
平野 清



大野原町の中心地域である大野原は、今から360年ほど前の江戸時代前期に、開発が始まりました。開発の中心は、何と言っても水を得ることにありました。井関池を中心にしたため池、それらからの用水路の建設、井戸の設置などが行われました。その間、井関池の決壊、修復などの歴史も加わり、水をめぐる闘いが大野原の歴史そのものだと言えます。

時代は下り、昭和4年には、井関池をもっと安定した水供給の拠点とするため、その上流に豊稔池ダムが建設されました。このダムは、石造りのマルチプルアーチダムであり、歴史的な建造物として、有形文化財に登録されており、全国的に有名なものとなっています。

その後、昭和39年には、五郷ダムが完成し、昭和40年代後半には、香川用水が建設され、農業用水の供給は飛躍的に安定したものとなりました。また、生活水の確保にとっても欠かせないものとなっています。

本年のように、早明浦ダム周辺の少雨の影響で香川用水のカットは、昔の水不足に戻ったようであります。農業用水は、こちらで雨が降れば潤うのですが、生活用水は、香川用水への依存度が高いので、早明浦周辺に雨が降り貯水率が回復しない限り、供給を削減しなければなりません。ですから、今年7月のように、濁水本部を設置したまま、大雨のための水防本部を設置するというおかしなことになってしまいます。

山本町に香川用水の調整池を設置する事業が進んでいますが、香川用水の供給がより安定したものになることは間違いのないと思います。だからといって依存度を高めると、濁水になったときには苦しさが高まります。

水行政は、本当に難しく、まだまだ水をめぐる闘いは続いて行きそうです。



豊稔池ダム